

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2025年 6月23日

青森県知事 殿

提出者 〒034-0011

住 所 青森県十和田市稲生町 1-13

氏 名 山崎製パン株式会社 十和田工場

工場長 野下 忠洋

電話番号 0176 (23) 3605

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	山崎製パン株式会社 十和田工場
事業場の所在地	青森県十和田市稲生町 1-13
計画期間	2025年4月1日 ～ 2026年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食品製造業（パン・和洋菓子）
② 事業の規模	46.38 億
③ 従業員数	177 名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・ 汚泥⇒発酵⇒肥料化・ 動植物性残渣⇒飼料化、発酵、焼却⇒飼料化、メタン化・ 廃プラスチック⇒焼却、破碎⇒樹脂原料化、・ 鉄くず⇒選別プレス⇒金属原料化

（日本産業規格A列4番）



(第2面) -1

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

総括責任者－工場長

管理責任者－事務課長 (担当廃棄物：廃プラスチック、動植物性残渣、ガラス屑)

廃棄物適正処理の指導、廃棄物の減量化・再資源化の計画立案

管理責任者－工務係長 (担当廃棄物：汚泥、金属くず)

事務局－事務課 廃棄物のデータ管理、減量化・再資源化の計画立案

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (2024 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排 出 量	37397t	294 t
	(これまでに実施した取組)		
	廃プラ (包材・トレイ) を有価物として売却した。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排 出 量	37023t	291t
	(今後実施する予定の取組)		
	有価物としての売却を促進していく。		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラを分別することで、有価売却できる物を選定する。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラの有価売却物に対応可能な委託業者を選定していく。

動植物性残さ	金属くず		
362 t	28 t		

動植物性残さ	金属くず		
358t	27t		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	37245t	t
	(これまでに実施した取組) フィリングのふき取りにより排水処理場への負荷を低減		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	36872t	t
	(今後実施する予定の取組) 継続してフィリングのふき取りを実施		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	152t	294t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	152t	294t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	廃プラの再資源化の質の向上（熱回収→固形燃料化）に対応可能な委託業者を選定。		

動植物性残さ	金属くず		
362 t	28 t	t	t
t	t	t	t
362t	28t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

(第5面) -1

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	151t	291t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	151t	291t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラの再資源化の質の向上(熱回収→固形燃料化)に対応可能な委託業者の選定を継続。		
※事務処理欄			

(第5面) -2

動植物性残さ	金属くず		
358t	27t	t	t
t	t	t	t
358t	27t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

(第 6 面)

備考

1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。

2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。

3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

7 ※欄は記入しないこと。